

第31回 自治体学会 山梨甲府大会

分科会

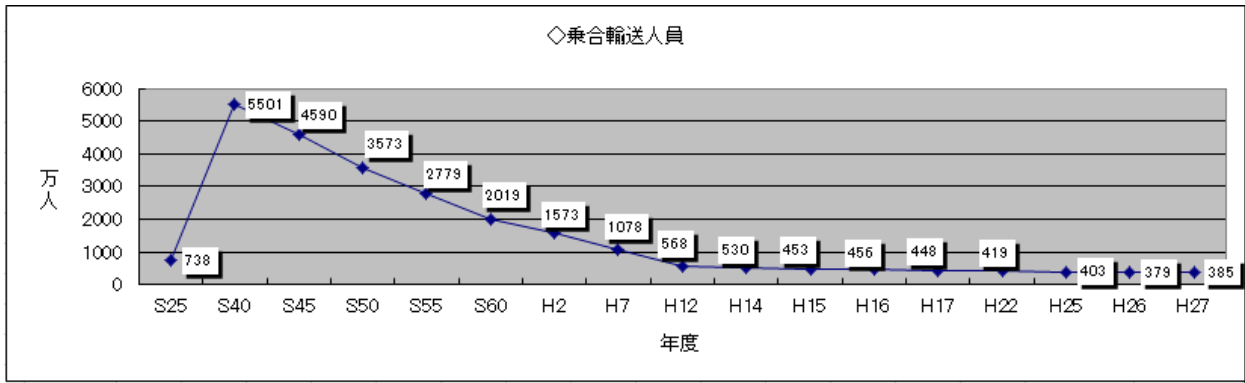
「地域公共交通をデザインする」

山梨交通(株) 雨宮正英



◇ 山交バスのペーパークラフト 甲府駅前バスセンターで配布中 (数量限定)

○ 当社 乗合バスの乗車人員推移



○ 甲府盆地は 何故 公共交通が未発達なのか

- 人口少なく、平均交通分担率から逆算しても事業採算性が成り立たない
- 人口少なく大量利用による割安感が出しにくい ⇒さらに人口減は進行
- 利用者が少ないので、さらに利便性(運行回数・路線数)低下の悪循環
- マイカー保有率高い ⇒駐車用地の確保容易 ⇒公共交通が貧弱だから
- 地域性 ⇒娯楽施設も少なく、マイカー自体が娯楽の対象 ⇒県民性？
- 自動車業界の戦略 ⇒例) 自動車の不動産化や軽自動車の排気量変遷

- ◇ 昭和 26 年 自動車抵当法
- ◇ 昭和 29 年 軽自動車へ大手メーカー参入
- ◇ 昭和 50 年 軽自動車排気量拡大 550cc
- ◇ 平成 2 年 軽自動車排気量拡大 660cc

自家用車の増大は、国の制度を変える当該業界の努力によって成し遂げられたもの

○ 利用率の低さは ⇒ 赤字の要因 ⇒ 維持困難

- 内部補填に頼る 日本型のバス政策で いつまで維持できるか
 - ◇ 市場原理を封印し公共交通を守っている交通会社
 - ◇ 補助する制度から発想の転換必要 … 施策としてバス運営資金 プロポーザル 等

➤ 現在の補助制度 と 今後望まれる補助制度

- ◇ 補助金では欠損満額が補助されない … 補填されない分は交通会社が負担している
- ◇ 補助金制度は、赤字額を査定して補助金額を小さくしていく制度
- ◇ 当社では 現行制度での補助申請系統は 18 系統 …旧制度では 30 系統超であった
- ◇ 現行制度は運行実績に対する赤字補てん(後払い)
- ◇ 交通政策・街の活性化対策・高齢者対策に対する「施策」(先払い)としての支援を望む

➤ 交通政策基本法は 救世主なのか

○ 誰が どうやって地方の公共交通を守って往くのか

突き詰めれば、誰が費用を負担するのか

➤ バスは物価の優等生 ⇒ H7 年以来値上げ無し ⇒ 経費圧縮の限界

年	賃率	初乗り	年	賃率	初乗り
昭和 44年	7円00銭	20円	昭和 58年	32円90銭	100円
47年	9円70銭	30円	60年	35円20銭	120円
49年	14円60銭	40円	62年	37円00銭	120円
50年	19円40銭	60円	平成 元年	38円10銭	120円
52年	23円20銭	70円	2年	39円70銭	130円
54年	26円20銭	80円	4年	41円60銭	140円
56年	29円90銭	100円	7年	44円00銭	150円

➤ 人口減少社会では交通分担率からすると ⇒ 自然な乗客増は期待薄

- ◇ バスの交通分担率は、平均すると 1~3%程度

➤ 行政施策としての乗車誘導策の必要性

- ◇ 交通需要マネジメント ⇒ コンパクトシティーにも応用可能

➤ 事業者としても、利便性向上と、移動手段以外の付加価値の工夫が必要

- ◇ 移動手段としてだけでなく、
 乗りたくなる施策
 環境・楽しさ・健康 etc

甲府駅南口の「バスコンシェルジュ表示」



- ▶ 観光二次交通 ⇒ 交流人口を取り込み、維持への助け舟となるのか
 - ◇ 観光地があるから二次交通が成り立つのか、或いは、二次交通あつての観光地か
 - ◇ 観光地集客の決め手は … 圧倒的な存在感・徹底的な施設整備 ⇒ 観光客の増加
- ▶ 先進諸国の バス政策 ⇒ ヨロッパ各国の「運輸公社」
 - ◇ 専門組織で一貫性を持った交通計画を策定可能、専門知識ある人材を持続的に登用可
 - ◇ サービス内容を立案し、議会が承認、民間から入札で事業者決定のプロセス

○ 地方における公共交通「バス」の維持 ⇒ 社会資本としての整備が不可欠

- ▶ 公共交通は自治体と住民(利用者)で考える、は正しいのか？
 - ◇ 国も今以上に移動権の保証に介入すべきでは
 - ◇ 交通業界も自動車業界と同じように、国への制度改正要望を発信し続けるべき
- ▶ 公共交通は、住みよい街の「社会資本」(公共財)と考える
 - ◇ 自治体によって異なる赤字バス対策(補助)も、国でガイドラインを定めるべき
 - ◇ 自治体・住民(利用者)に加えて、地元企業の巻き込みが不可欠

○ 甲府盆地における 将来のバス構想

- ▶ 本格的な BRT を ⇒ リニア新幹線開業時における二次交通
 - ◇ 鉄道の利便性・信頼性をバスで安価に実現 ⇒ 世界中で実現



- ▶ 自動運転バスの導入
 - ◇ 運営費用削減の期待
 - ◇ 働き方改革に資する
 - ◇ ヒューマンエラーの削減で安全性向上の期待

